

# 私は決意した 私が作る！ 栄養と水分が摂れる 美味しい非常食を！



2024  
**11/30** (土) まで

**支援募集締切**  
皆様のご支援お待ちしております

令和6年7月1日。16時10分。マグニチュード7.6の大地震が石川県能登半島を襲った。私は「輪島市町野町」にある父の実家で、全壊した家屋の下敷きになった。家族や近所の方々に救出されたのは3時間後だった。家族で「JAのと町野支店」に避難し、避難所生活を4日間送った。備蓄食料は無く、断水、停電、通信不可という状況で、私は家族5人で紙コップ一杯の水を分け合った。会話もなく誰もが暗かった。2日目に、避難者が半壊した自宅や畑から食料を持ち寄って作ってくれた温かいお握りとみそ汁。食べると、不安や恐怖がスーッと消えた。被災後、初めてみんなが笑顔になった。「食べることは生きる力になる！希望を持つ力になる！」と感じた。3日目に、自衛隊の救援物資が届いた。非常食の缶詰は嵩張るため数が少なく、クラッカーや乾パンは硬くて食べづらく喉も渴く。粉末スープはお湯が必要だが水は入っていなかった。5日目に、なんとか金沢市の自宅に帰ることができた。この経験から「栄養と水分が手軽に摂れる美味しい非常食を作ろう」と決意した。



能登半島地震全壊家屋から  
救出された高校生  
「菊環」がつくる  
非常食「酒米甘酒羊羹」

